

手話教室のご案内

日時： 9月10日（木） 時間

9月24日（木） 14:00～15:00

場 所：倉吉市人権文化センター

参加者随時受付中です！お気軽にご参加ください！



にほんごがくしゅうかい あんない 日本語学習会のご案内

日時： 9月 2日（水）

時間 time

9月 9日（水）

・13:30～15:00

9月30日（水）

・19:30～21:00

場 所：倉吉市人権文化センター

内 容：日常生活に必要な日本語を学ぶ



※天候等により教室が延期になる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

Please note that the event may be postponed due to weather conditions, etc.

◎生活の中で困りのことはありませんか？



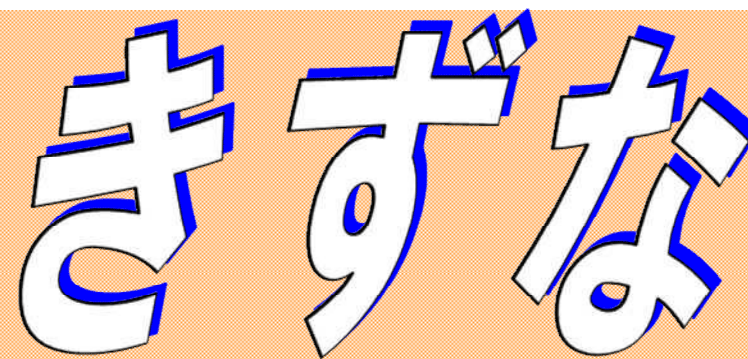
一人で抱え込まずに相談してみませんか？
お困りのことがあればお気軽にお越しください。
電話対応もいたします。
※ご相談いただいた内容は秘密厳守いたします。
安心してご相談ください。

◎差別落書きや人権侵害に気づいたら！すぐにお知らせください！

差別発言などの人権侵害や差別落書きは許されない行為です。発見された場合は倉吉市人権政策課または最寄りの人権文化センターまでご連絡ください。

連絡先：倉吉市人権政策課 ☎（0858）22-8130

倉吉市人権文化センター ☎（0858）22-4768



倉吉市人権文化センターだより

2026年9月1日 発行 No.189 号

発行所：倉吉市人権文化センター

住 所：倉吉市鍛冶町1丁目2971-2

電 話/FAX：0858-22-4768

メールアドレス：jinkenbunka@ncn-k.net

アンコンシャス・バイアスと性別役割分担意識

日常生活の中で「男だから」「女だから」という理由で、男女の役割や生き方を決めつけていませんか？
こうした考えは、自分でも気がつかないうちに身につけている無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）から生まれることがあります。

1 アンコンシャス・バイアスは「見えない心の壁」

アンコンシャス・バイアスは、自分では気がつきにくい無意識の思い込みで、これまでの経験や価値観に影響されて身についたものです。本人が自覚していないため、相手を理解する前に無意識に判断してしまうなど、「見えない心の壁」となることがあります。

例えば…

- ・男女の性別によって仕事や役割を決めること
- ・学歴や年齢、国籍、肌の色などで相手を判断すること



2 性別役割分担意識とは

「女だから」「男だから」など、性別だけを理由に、男女の役割を固定的に決めつける考え方のことです。

例えば…

- ・男は仕事、女は家庭
- ・家事、育児、介護は女性の仕事
- ・組織のリーダーは男性の方が向いている
- ・営業は男性、女性は事務職が適している



3 アンコンシャス・バイアスと性別役割分担意識の関係

性別役割分担意識は、アンコンシャス・バイアスの一つとして現れることがあります。例えば「男性は仕事、女性は家庭」のような考え方をあたりまえと思っている場合は、長年の生活や経験で身についた無意識の思い込みであることが考えられます。

立ち止まって考えることの大切さ

アンコンシャス・バイアスは誰もが持っているものです。お互いを尊重し、多様な生き方や考え方を認め合うことから、性別による偏見のない社会への一歩が始まります。性別に関わらず、一人ひとりが自分らしく生きることが出来る社会を実現するためには、「これは性別ではなく、その人自身を見て判断しているだろうか」と立ち止まって考えることが大切です。

8月の事業報告



手話教室 「こども手話教室交流会」 8/6



倉吉市人権文化センターでは、毎月2回手話教室を開催しています。8月は通常の手話教室とあわせて「こども手話教室」を開催しました。

はじめは、手話に対して「難しそう」「覚えられん」といったイメージを持っていた子どもたちでしたが、身近な言葉や漢字から連想できる手話を取り入れることで、楽しみながら学ぶ姿がみられました。子どもたちにも親しみやすい内容だったこともあり、次第に積極的に手話を覚えようとする姿がみられました。

教室の最後には、講師から一人ずつ自分の名前の手話を教えていただきました。自分の名前を手話で表現できた子どもたちの目は輝いており、「もっと知りたい、もっと学びたい」という気持ちが伝わってきました。

手話を身近に感じると共に、聴覚障がいへの理解やコミュニケーションの大切さを考えるきっかけとなりました。



小学生育成事業「夏休みスペシャル学習会 元気なからだのひみつを知ろう！」 8/17

倉吉市人権文化センターでは、毎年夏休みに小学生育成事業を開催しています。地域の小学生と保護者が一緒に交流しながら、「健康に過ごすことの大切さ」について楽しく学びました。

はじめに、鳥取ヤクルト販売株式会社の方から、腸や大腸の働きについてお話を聞きました。毎日元気に過ごすためには、朝ご飯を食べることや、規則正しい生活を送ることが大切だということを子どもたちは興味を持って聞いていました。

その後は、健康に良い食材を使ってみんなでおにぎりを作り、お汁と一緒にいただきました。自分たちで作ったおにぎりを嬉しそうに食べる姿が印象的でした。

食えること、眠ること、元気に過ごすこと。私たちが毎日当たり前のようにしていることのひとつひとつが、自分の命や健康を大切にすることにつながっています。

今回の学習を通して、子どもたちが健康について知るだけでなく、「自分を大切にすること」について考えるきっかけになったのではないかと思います。



ちよこつと人権



～「ありがとう」がつなぐ心～

「ありがとう」は、心をあたたくする魔法の言葉

★作：東日本大震災ボランティア参加者

「ありがとう」はたった5文字の言葉ですが、言われた人も、

伝えた人も温かい気持ちになれる不思議な力があります。

私たちは、日々の暮らしの中で、家族や友人、職場の仲間、地域の方々など、たくさんの人に支えられて生活しています。

私が東日本大震災の被災地でボランティアとして訪れた時に、一人の小学生と出会いました。その女の子は、周りにいる人に何度も「ありがとう」と言っていました。

「どうしてそんなに何度もありがとうって言ってくれるの？」と尋ねると、

「この地震、津波があって自分がたくさんの人に支えられていることに気づいた。これまでの当たり前だと思っていた日常が決して当たり前ではなかった。今、本当にたくさんの人に助けられている。だからありがとうってみんなに伝えたい」

そう言った女の子の言葉は、今でも私の心に残っています。

あれから15年。この春数年ぶりに被災地に行き、27歳になった彼女と再会しました。

27歳の彼女と当時の話をする中で、

「あの時は本当にたくさんの人に支えてもらいました。全国から、世界からたくさんの人がきてくれた。こうして今もつながってられることにも感謝しなくてはいけないし、たくさんの人に「ありがとう」の輪がひろがったと思っています」と話してくれました。

あの日の出会いから15年たった今でもつながっている。

人との出会いは本当に不思議なものです。

そして離れていても言葉を交わし、つながれる時代。

忙しい毎日の中では、つい「言わなくてもわかっている」「明日にしよう」

そう思うってしまうこともあります。でも言葉にしなければ伝わらない気持ちもあります。

今日、あなたは誰に「ありがとう」を伝えますか？

あなたの「ありがとう」が、誰かの笑顔になり、

また次の「ありがとう」へつながっていくかもしれません。